

＜検討の概要＞

東日本大震災以降も、各地で大規模な自然災害が発生している中で、災害による人的被害を最小限に抑えるには、災害情報を早期に確実に住民に伝達することが不可欠であり、そのためには、可能な限り効率的に情報を収集・活用・伝達することのできるシステムの構築が必要と考え、今年度は、防災情報システムの基本的な考え方について検討を進めてきたところである。

防災無線などの通信インフラと ICT を活用した各機能とを連携させ、住民との相互連携・協力による防災・減災の取組みを推進する「青森市型の防災情報システム」に必要な機能等の整理を進めている。

＜今後の取組み＞

市では、「つよい街」を実現し、防災対策を万全とするよう、将来的な導入の基本方針を整理し、短期・中期・長期的な視点で段階的に整備するための検討を進めることとした。

【短期：基本機能の整備】

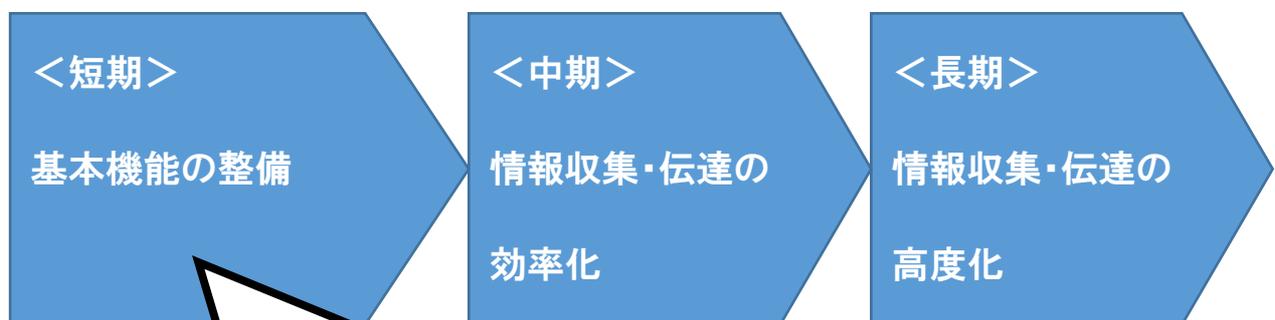
新市庁舎の竣工時に併せ、災害対策本部機能の強化等を図るため、システムの基本的な機能を整備するための検討を行う。

【中期：情報収集・伝達の効率化】

新市庁舎竣工後において、Jアラートと連動した情報発信の効率化や無線デジタル化の期限を見据えた防災行政無線の更新による情報収集・伝達の効率化を図る機能を整備するために検討を行う。

【長期：情報収集・伝達の高度化】

情報収集・伝達の高度化や多重化に必要な機能の整備に関する検討を行う。



新市庁舎におけるサーバー機器の整備や防災システムの基本機能の整備により、災害対策本部機能の強化を図る。